

普通車、小型車の低迷が続く乗用車の「新車新規登録台数」

【前年割れが続く乗用車の新車新規登録台数】

乗用車の新車新規登録台数は、景気動向のうち、個人消費の動向をとらえる指標として広く使われています。しかし、最近の景気回復にも関わらず、乗用車の新車新規登録台数（軽乗用車を含む）は低迷が続いており、全国では、06年7月が前年比△6.2%の39万6,264台と4カ月連続前年を下回っています。車種別にみると、3ナンバーの普通車と5ナンバーの小型車の新車新規登録台数が低迷しており、普通車は前年比△5.9%の10万4,628台と13カ月連続の前年割れ、小型車は同△14.6%の16万3,144台と6カ月連続の前年割れとなっています。一方、軽乗用車は好調に推移しており、前年比+7.0%の12万8,492台と7カ月連続で前年を上回っています（図1）。

こうした背景には、ガソリン価格の高騰により燃費の良い軽乗用車へシフトする傾向が高まっていることに加え、消費スタイルの変化による新車購入意欲の低下や新車買い換えサイクルの長期化、メーカー間の競争激化などが影響しているようです。

【県内も普通車、小型車の減少が目立つ】

県内の乗用車の新車新規登録台数は一進一退が続いており、06年7月は前年比△3.7%の7,959台と2カ月ぶりに前年を下回りました。車種別にみると、普通車が前年比△2.8%の1,690台と6カ月連続の前年割れ、小型車が同△21.8%の3,036台と5カ月連続の前年割れになっています。一方、全国と同様に軽乗用車は好調で、06年7月は前年比+22.2%の3,233台と2カ月連続で前年比2ケタ増になるとともに、4月以降は小型車の新車新規登録台数を上回って推移しています（図2）。

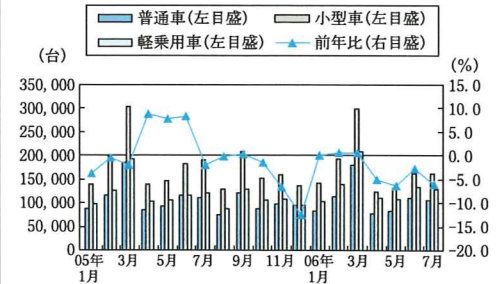
【軽乗用車のシェアは拡大傾向】

もともと、県内では都市部と比べ公共交通機関の利便性が低い地域が多く、女性を中心に通勤や買い物などに軽乗用車を利用する割合が高いことなどから、軽乗用車登録台数は全国に比べて高い水準にあります。また、98年に規格改定され性能が向上したことなどから、全国的に乗用車の新車新規登録台数全体に占める軽乗用車の割合は拡大しており、05年には全国で29.2%、県内で37.0%を占めています（図3）。

■乗用車の新車新規登録台数とは・・・

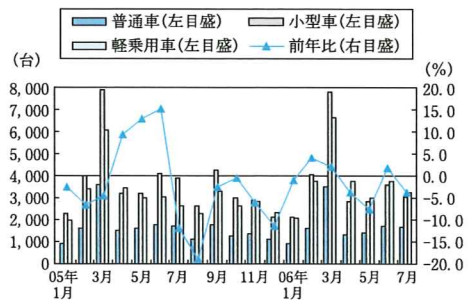
全国各地の陸運支局に登録された新車の台数を調査しており、景気動向のうち、耐久消費財の消費動向を把握する指標として広く使われています。自動車を購入した際には必ず登録を行う必要があるため網羅性があり、翌月初めには公表されるので速報性にも優れています。そのため、乗用車の新車新規登録台数（軽乗用車を除く）は、県内の景気動向指数（DI）の景気に先行して動く「先行指数」の1指標としても利用されています。

図1：新車新規登録台数(全国)



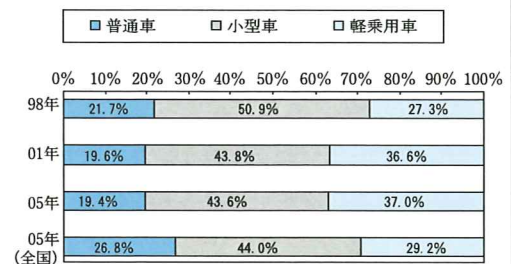
資料：日本自動車販売協会連合会 全国軽自動車協会連合会

図2：新車新規登録台数(県内)



資料：新潟運輸支局

図3：新車新規登録台数の車種別割合(県内)



資料：新潟運輸支局、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会